

**土木学会 コンクリート委員会**  
**平成 25 年度 第 2 回規準関連小委員会 議事録（案）**

1. 日 時： 平成 25 年 7 月 29 日（月） 14:00～17:10

2. 場 所： 土木学会 EF 会議室

3. 出席者：

鎌田委員長，上野幹事長，石野田，入内島，内田，小川，片平，加藤，川西，田中，椿，中村，野島，日比野，堀越，松原，皆川，森，横尾，横関，蔵重（記録）（敬称略，計 21 名）

4. 配布資料：

25-2-0 平成 25 年度 第 2 回 規準関連小委員会 議事次第（案）

25-2-1 平成 25 年度 第 1 回 規準関連小委員会 議事録（案）

25-2-2 セメント・水・骨材・混和材料 WG 改訂の概要メモ

25-2-3 鋼材・補強材 WG 関連メモ

25-2-4 フレッシュコンクリート WG 資料

25-2-5 硬化コンクリート WG 報告

25-2-6 製品・施工機械 WG 資料

25-2-7 補修材料 WG 資料

25-2-8 表面被覆材の酸素透過性試験方法（案）（JSCE-K 521-2013）

25-2-9 コンクリート構造物補修用有機系ひび割れ注入材の試験方法（案）（JSCE-K 541-2013）

5. 議 事：

(1) 委員長挨拶

鎌田委員長より、「報告会が 11 月 13 日に迫り，マラソンで言えば競技場に戻って来たところ。残りわずかですですが，皆様どうぞよろしくお願ひします。」との挨拶があった。

(2) 前回議事録案の確認

異議なく，承認された。

(3) 委員交代について

NEXCO 総研野島委員より，7 月一杯で転勤異動により退任見込みのことから挨拶があった。後任は室長の青木さんの予定であり，異議なく，小委員会の承認が得られた。

(4) 各 WG からの改訂作業報告

各 WG より土木学会規準クロスチェック後の修正内容や気づき等について報告があった。主な審議内容および決定事項は以下のとおりである。

**a) セメント・水・骨材・混和材料 WG**

- ・節項番号後のタイトルの有無は統一されていないが，今回の改訂では，直前の修正による混乱を避ける目的からこのままとする。
- ・数式のフォントサイズが多少大きめで違和感があるとの意見もあるが，審議統一した書式であるのでこのままとする。
- ・一部の用語について設計編や施工編と漢字の使い方が統一されていないが，今回の改訂では，規準編において用語が統一されているのであれば問題ないものとする。
- ・「注」の中で段落を設ける場合は，段落し（文頭の字下げ）を行うこととする。
- ・引用規格の章番号後の見出しの挿入有無については，今回の改訂では，直前の修正による混乱を避ける目的から統一せず，現状のままでよい。

**b) 鋼材・補強材 WG**

- E102「エポキシ樹脂塗装鉄筋の品質規格」に関する修正事項（E-515 の試験条件や図表の重複掲載の見直し）は、異議なく、承認された。
- E512「エポキシ樹脂塗装鉄筋のピンホール試験方法」に関する修正事項（注(4), (5), (7)の本文への挿入）は、審議の結果、4.5に「そのような試験材が」（数本続く場合には～）を追記することで承認された。
- E514「エポキシ樹脂塗装鉄筋の耐衝撃性試験方法」に関する修正事項（注(1)の本文への挿入）は、審議の結果、「鉄筋の同じ箇所におもりが2回以上当たらないようにしなければならない。」との記述にすることで承認された。
- E515「樹脂被覆鉄筋の曲げ試験方法」に関する修正事項（注(2), (3)の本文への挿入）は、異議なく、承認された。
- E518「エポキシ樹脂塗装鉄筋の耐食性試験方法」に関する修正事項（注(1)～(4)の本文への挿入）は、異議なく、承認された。
- E530「エポキシ樹脂塗装鉄筋用塗料の塗膜塩化物イオン透過性試験方法」に関する修正事項（図1のキャプション表記の変更）は、異議なく、承認された。
- E538「連続繊維補強材の耐アルカリ試験方法」に関する修正事項（E549の表記と統一することを目的とした「質量減少率」→「質量変化率 $\alpha$ 」への修正、数値の丸め方の説明追記）は、審議の結果、E549とともに「質量減少率」に統一表記することとなった。また、数値の丸め方に関する追記については異議なく承認された。
- E549「連続繊維シートの耐水、耐酸、耐アルカリ試験方法」に関する修正事項（pHの表記削除など）は、異議なく、承認された。
- E146「プレグラウトPC鋼材用エポキシ樹脂の品質規格」に関する修正事項（報告内容の一部削除）は、異議なく、承認された。

#### c) フレッシュコンクリート WG

- F551「試験室における鋼繊維補強コンクリートの作り方」、F552「鋼繊維補強コンクリートの強度およびタフネス試験用供試体の作り方」、F553「吹付け鋼繊維補強コンクリートの強度およびタフネス試験用供試体の作り方」における報告事項に「試験の目的」が規定されているが、この必要性について審議した結果、このまま残すこととなった。
- タイトル中の英字は半角とすることを確認した。
- 単位としての「日」、「時」の取り扱いは、フレッシュコンクリートWG提案の「材齢7日」、「材齢 $n$ (日)」のように、数値の場合は数値+半角空白+単位とし、文字の場合は文字+括弧+単位+括弧に、原則統一することとなった。
- フレッシュコンクリートWGより改訂資料のドラフトが示され、鎌田委員長より、各WGに対してこのような改訂資料を作成するよう依頼があった。

#### d) 硬化コンクリート WG

- G572「浸せきによるコンクリート中の塩化物イオンの見掛けの拡散係数試験方法（案）」に関する意見（塩化物イオンの浸透が比較的早いと予想されるコンクリートに対する供試体形状等の緩和条項等の追加）については、時間の制約上、今回の改訂では取り上げず、今後の検討課題とすることとなった。
- 同上 G572における報告事項の全塩化物イオンの単位は、特に併記を義務付けず、(%)または( $\text{kg}/\text{m}^3$ )といった表記とすることとなった。
- ユーザーからの質問を受け、G521およびG522の供試体の膨張抑制に関する記述を、「供試体1個あたり約0kgとする」といった丁寧な記述に変更することが提案され、異議なく承認された。

#### e) 製品・施工機械 WG

- ・ H101「プレキャストコンクリート用樹脂系接着剤（橋げた用）品質規格（案）」に関する指摘事項（W/C=50%で 60N/mm<sup>2</sup> は超えるのか？材齢等関係ないのか？）に対しては、修正は見送ることとし、数値の根拠等を今後調べることとなった。
- ・ I501「連続ミキサの計量・供給性能試験方法（案）」に関する指摘事項（比重は密度では？粒度とは具体的に何？）に対しては、それぞれ「密度」,「粒度（粒径加積曲線,粗粒率など）」との表記に修正することとなった。
- ・ I502「連続ミキサの練混ぜ性能試験方法（案）」に関する指摘事項（「～差」の表記の妥当性）に対しては、現状の表記のままとすることとした。

#### f) 補修材料 WG

- ・ K521「表面被覆材の酸素透過性試験方法（案）」に関する指摘事項（JIS K 7100 との温度表記の整合）への対応は、JIS の内容を注記とする補修材料 WG の修正案が承認された。
- ・ K523「表面被覆材の透水量試験方法（案）」に関する指摘事項（JIS 規格の引用に関する矛盾）に対して、読者の混乱を招かないように、引用の一本化を行った補修材料 WG の修正案が承認された。
- ・ K541「コンクリート構造物補修用有機系ひび割れ注入材の試験方法（案）」の「試験室の状態」については、K521 の記述にならない温湿度を本文にてまず明示し、注において JIS 等を参照した根拠の説明を付け加えることとなった。これに合わせて H101 も同様な記述に変更することにした。

#### (5) 報告会（11月13日）について

上野幹事長より、報告会の具体的な内容およびタイムスケジュールについて、報告会 WG が中心となって今後メール審議していく旨、連絡があった。また、鎌田委員長からは、「出来るだけ多くの方に参加頂けるよう、特別講演等も充実させたい。委員各位のお声掛けもお願いしたい」との要請があった。

#### (6) 規準編の装丁について

鎌田委員長より、「日比野委員の協力によって選定された紙を用いた印刷となる見込みである。JIS 版の装丁は、日本規格協会の判断によることになる。」との報告があった。

#### (7) その他

鎌田委員長より、「本日会議をもって、規準編の内容は確定したことになる。今後は、印刷のための最終原稿の作成作業となる。土木学会事務局富田さんへの提出期限は 8月20日（火） とし、各 WG 毎に責任を持って WORD ファイルをお送りいただきたい。なお、目次の最終版については、上野幹事長より配布されたものを早急に確認し、8月10日（土） までに報告すること。」との依頼があった。

以上